

平成29年度

第3回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録
(平成29年11月 第三回)

- 1 日 付 平成29年11月19日 (日)
- 2 場 所 門沢橋小学校体育館
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 平井 照江 教育委員 岡部 二九雄
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎
参事兼教育支援 小宮 洋子 教育総務課長 吉川 浩
課長兼指導主事
教育総務課総務 阿部 優文 教育総務課主査 志村 政憲
係長
教育総務課主事 神福 壽子 教育総務課主事 鈴木 貴博
補
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項
(1) 全国学力・学習状況調査の結果について
(2) 部活動のあり方について
(3) 有馬中学校生徒からの学校に関する要望・提案について
(4) 保護者負担経費について
- 7 閉会時刻 午前11時45分

○**教育部次長** ただいまより、平成29年度第3回海老名市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日司会を務めさせていただきます教育部次長の金指と申します。よろしくお願いいたします。また進行につきましては、本日お配りしてございます次第により進めさせていただきますしたいと思います。

それでは、早速始めさせていただきます。初めに、市長と教育長からご挨拶を申し上げます。

内野市長、お願いいたします。

○**内野市長** おはようございます。本当に日曜日にこんなに多く集まっていただきまして、傍聴の方、ありがとうございます。

この総合教育会議は今年で3年目を迎えておりまして、今年は3回目になっております。本日は全国学力・学習状況調査の結果から始まって、有馬中学校の生徒から学校への要望、提案を受けたいと思っています。前から話題になっておりました部活動のあり方につきましては中間報告を教育委員会からしていただき、それについて教育委員の皆さんと協議をしていきたいと思っています。最後に、保護者負担軽減につきましては、今、さまざま予算編成を行っておりますけれども、若干私のほうから報告をさせていただきますと思います。後ほど時間がありましたら傍聴の皆さんからも意見を求めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。これは私が議長で、教育委員の皆さんと教育に関して話し合っていくという場でありまして、ここは決定機関というよりも、どちらかといえば方向性を決めながら教育委員会で決定をしていくという機関であります。よって、傍聴人の皆さんはさまざまな意見があろうと思いますけれども、そういったことを踏まえて発言をよろしくお願いいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

○**教育部次長** ありがとうございます。

続きまして、伊藤教育長、お願いいたします。

○**伊藤教育長** おはようございます。寒い中、集まっただいて本当にありがとうございます。二、三日前、もっと前に本日はすごく寒くなるというのがわかったのですよ。それなので図書室かなにかでやれないのと言ったのですけれども、事務局が、今回は人がたくさん来るから図書室へ入り切れませんということで、体育館でこのように行ったところでございます。本当に多くの人に来てもらってありがとうございます。南部の方というの

ではなくて、市内全域から来ていただいております。

私個人としては、実を言うと、教員生活は22年ほどやったのですが、その20年間は東名から南側です。要するに北部には上星小学校に2年間行ったのですが、それ以外は東名から南側の地域で働いていたものですので、南部というか、有馬地区に來ると、有馬地区の先輩たちの顔を少し見るだけでほっとするというか、心がなごむところでございます。

総合教育会議は市長さんと我々の話し合いの場ですが、教育そのもの自体は子どもを育てるという行為ですので、保護者の方はもちろんそうですけれども、すべての地域の方が関わる行為ですので、そういう意味で我々の話を見守っていただいて、また聞いていただいて、市長さんのほうから何か意見はありますかと言ったら、それぞれ皆さんの思うことを伝えていただければありがたいと思います。

それでは、本日はよろしくお願ひいたします。

○教育部次長 ありがとうございます。

それでは協議に入る前に、総合教育会議について簡単に説明させていただきます。

市長、それから教育長からも若干ありましたけれども、重複がありますが、よろしくお願ひします。

まず総合教育会議につきましては、市長と、本日お越しになっております教育委員さんが連携をして、市の教育に関する大きな方針の教育大綱、それから教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策などについて協議調整を行う場でございます。その結果、調整が図られた場合にはその結果を尊重するということになるものでございます。

また、先ほど市長からもお話がありましたけれども、会議中に市長から会場の保護者の皆さんに意見を求める場合もございます。その際には、大変恐縮でございますが、時間も限られてございますので、簡潔にお願いしたいと思います。

さらに、協議事項(3)でございますけれども、もう既に有馬中学校の生徒が控えていますが、今回、有馬中学校の生徒にお越しいただきまして、学校に関する要望・提案を発表していただく機会を設定させていただきました。市長、それから教育委員、あるいは有馬中学校の生徒6名が一緒になって協議をいたしますので、ご承知おきをお願いしたいと思います。

それでは、次第3の協議に入りたいと思います。案件につきましては、お手元の次第のとおり4件となっております。

これより協議の進行につきましては内野市長に議長をお願いしたいと思います。内野市長、よろしくお願いいたします。

○内野市長 それでは、協議事項(1)全国学力・学習状況調査の結果についてを議題といたします。

初めに、事務局より説明をお願いいたします。

○教育部参事 それでは、ご説明いたします。全国学力・学習状況調査は非常に長い名前の調査ですので、学力テストとか全国学状というふうに省略して呼んだりすることがあります。これは10年前から始まった全国的な調査でして、小学校6年生と中学校3年生全員が対象ということになっております。

内容は、国語と算数(数学)。知識を見るA問題と活用力を見るB問題がございます。さらに、3年に1回、理科の調査があります。その教科の調査とは別に、子どもたちが90問ぐらいのアンケートに答える形で学習習慣であるとか生活習慣を見る質問紙という調査もございます。さらに、校長先生が学校の取り組みについて答える学校の質問紙というものがございます。4月半ばに、全国全く同じ日に調査を行いまして、8月の下旬に国から市、学校のほうに結果が戻ってまいります。

海老名市では平成26年度からこの全国学力・学習状況調査の本格的な結果の分析と公表を開始いたしました。分析、公表の目的は、子どもたちが、そして学校、市が改善に生かすというもの、それから保護者や市民の皆様の結果を公表することで、学習習慣であるとか生活習慣の改善にご協力をいただきたいというものでございます。

公表の方法ですが、市全体の結果を市の教育委員会のほうで分析を行います。さらに学校ごとの結果については、それぞれの小中学校が分析を行い、市のホームページで結果を公表いたします。さらに、学校の結果については冊子にいたしまして、全学年の保護者に配付をさせていただいております。

それでは、今年度の結果について概要をお話しいたします。カラーのもので前を見ていただきますと、赤の部分が海老名市の結果、水色が神奈川県の結果、そして濃い青が全国の結果となっております。左から3本セットで国語A、国語B、算数A、算数Bとなっております。見てわかるとおり、海老名市の小学生は全国と結果にほとんど差はないのですけれども、若干下回っているという状況がございます。

中学生です。同じように全国と大きな差はないのですが、中学生のほうは若干上回って

いる教科が多いという形です。

ここまで4年間分析を行ってまいりまして、受けている子どもたちは年々かわるのですが、いつも海老名市の子どもたちはここが弱いという弱点、課題の部分が見えてまいりましたので、それを具体的に、短い時間ですので3つほどお話しさせていただきたいと思えます。

まず1つ目です。海老名市の子どもたちは漢字が苦手ということがはっきりと出てまいりました。これは小学校の今年の問題なのですが、「参加たいしょう（対象）」書けた子どもが3人に1人で、全国に比べて約10ポイントほど少ないという状況がございました。そして「箱をおく（置く）」、読みですね「事務室（じむしつ）」という読みも全国よりも読めた子どもが少なかった。答えはこのような形になります。

ただ、こんな状況の中で、ここの門沢橋小学校の子どもたちは、「きぼう（希望）」という漢字が今年出たんですけれども、「希望」という漢字がものすごくよく書けまして、全国よりも4ポイントほど上回って、すてきなことだなと思えました。

中学生でも漢字はやはり苦手で、今年度の設問です。「運動会がえんき（延期）」になる。「組織のきぼ（規模）」「水が垂れる（たれる）」これも全国よりも軒並み低いという状況がございました。ただ、中学3年生が受けるテストなんですけれども、出る漢字はすべて、今までもそうなのですが、小学校の高学年で習う漢字が出題されております。ちなみに、有馬中学校の今年の3年生は「あざやか（鮮やか）な色合い」という「鮮やか」という漢字が非常によくできていて、全国を上回ったという状況があります。

さらに次ですが、算数においては四則混合計算が苦手。四則混合というのは、足す、引く、掛ける、割るが混ざった計算が毎年苦手という結果が出ております。今年度で言うと、このような「 $6 + 0.5 \times 2$ 」、さらに過去ではこのように整数だけの場合も全国よりもかなり下回った状況で、先頭から順々に計算してしまうという子どもが多いです。

中学生数学では、計算はよくできるという特徴があるのですが、毎年、割合の関係、表から割合を出すという問題が苦手です。少し小さいのですが、最高気温をまとめた表において相対度数——相対度数というのはパーセントを出すときの100を掛ける前の数字なのですが、これを出すという問題で、 $3 \div 30$ で0.1と答えるものが、3人に1人、全国よりも10ポイント以上低い状況で、パーセントで聞かれても、いつも全国よりも10ポイント以上低いという状況がございました。

さらに国語、算数（数学）共通の課題なのですが、無解答率が高いというものがござい

ます。無解答率というのは何も書かないでバツになる。書いてバツになるというものもあるのですが、書かないでバツになる子どもが多いという状況があります。このグラフは上が海老名市、下が全国で、ピンクの部分は書いたけれどもバツになった、それに対して赤の部分は何も書かない、例えばア、イ、ウから選ぶような問題でも書かない子どもが多いということがございます。

これは中学校のほうでも同じ傾向がありまして、ただ、中学生は3年前、4年前は書く子が多かったのですが、去年あたりからこの無解答率が高い傾向が出てきております。

最後に、生活の質問紙についてです。このグラフは青の正七角形の部分ですが、これを全国の平均値としたときに、海老名市の子どもたちがそれに比べてどうかということを示す赤の部分は外側に飛び出ているほど、そこはよいということになります。

小学生の結果ですが、右上の学習習慣というところで、平日2時間以上、休日3時間以上勉強している子どもの割合が全国よりも多いということになります。左上の大きくへこんでいる部分ですが、これは地域・社会への関心という項目で、地域の行事に参加しているという子どもの割合が全国に比べて低い状況が見えてきております。

続いて中学校になると、小学校の弱点がさらに大きくなって、特徴がはっきりしてまいります。学習習慣、右上の部分、それから左下の学校生活の充実というところが全国よりも上回っており、右下のTV、ゲーム、携帯・スマホの使用の時間が全国よりかなり長いということが毎年出ております。左上の地域・社会への関心も、小学校と同様に全国よりも下回っている状況がございます。

今後のスケジュールですけれども、11月下旬、3日後になりますが、定例の教育委員会にて細かい公表内容を決定いたします。さらに、12月中旬に学校ごとに全学年に冊子を配付すると同時に、市のホームページで今年度の結果を公表いたします。いずれにいたしましても、市教委と学校が指導の改善に取り組むということが一番大切なことと考えております。ぜひご家庭におきましても結果をご覧になりまして、ご協力をお願いできればと思います。

○内野市長 ただいま報告がありました。教育委員の皆さんから何かございますか。平井先生と教育長が現場にいらっしゃいましたから、3人は違うわけでありまして、その観点から。では、松樹さんから一言。後で、教育委員会でこれは議論されると思うので、その部分の質疑とか、あるいは考え方をお話ししていただければよいなと思います。

○松樹委員 おはようございます。よろしくお願いいたします。

今週に定例会が今、市長からございましたように審議をされるということで、点数とかは出てきていないのですが、ここ4年やっっているいろいろな傾向が顕著になってきたのではないかというのは、先ほどのご説明でもございましたけれども、来年5年という区切りの中でさらに分析を重ねて、委員会としても何ができるのか、そして地域や家庭にお願いすることももっとしっかり明確にできるのではないかという気がしております。漠然とこれをしてはだめですよ、あれをしてはだめですよと言うより、もっとこうしていきましょうというような建設的な、抽象的ではなくて具体的な内容で、ともに学力を上げていければいいかなと思っております。

また1点、大前提として、学力というと国語と算数（数学）、2教科なのですが、もちろん子どもは学力だけではありませんし、この2教科だけではありませんので、子どもを育むという観点の中でこれを1つの参考材料とできればと思っております。

それと毎年これは話題になるのですが、ここで小学校のほうが、全国的に少しポイントが下回って、中学校のほうが高いという毎年の傾向が海老名にはあるのですが、現場の先生たちもいろいろ分析をされているかと思うのですが、無回答というのがあるので、私はテストなれしていないというのがあるのではないかという気がしております。小学校時代に何時何分からテストを始めて、用意ドンという中で普通のこういうテストというのはなかなかしていないかと思うのですね。いきなり6年生になった4月ですので、まだ緊張感の中でテストという形ですので、そこもクリアしながら現場の先生たちともやりとりしながら問題解決を図っていければと思っております。

○内野市長 海野委員さんは。

○海野委員 はい、よろしくお願いいたします。全国学力・学習状況調査は5年目に入りまして、国語とか算数は学校のほうでもいろいろなことを対応していらっしゃる、それなりに毎年努力されていると思うのですよね。家庭学習とか繰り返しテストとか、漢字の苦手を克服しようということも学校側では結構されていると思っております。学習習慣なのですけれども、地域・社会への関心の低さとかTV、ゲームとかいうのは、学校だけではなくて、ご家庭での子どもたちとのコミュニケーションというのも少し欠けているかなと思います。保護者が自治会のほうにもう少し協力するとか、子ども会に出るとか、地域の行事に保護者が参加されることによって子どもたちも関心が持てるのではないかと思います。それは今の保護者が忙しいということもありますので、子どもとコミュニケーショ

ンをとって、お互いにいろいろな行事に参加しましょうということをもう少し気をつけていただければと思います。

テレビとかスマホのゲームですけれども、これも同じように家庭内での取り決めがもう少しされれば、使い勝手の状況もよくなるのではないかと思いますけれども、携帯というのはどうしてもこの時代に必要なことなので、その使い方のことはご家庭で検討されればよろしいのではないかと思います。

○内野市長 岡部さんはいかがですか。

○岡部委員 よろしくお願ひします。全国学力・学習状況調査は毎年、発表する時期になると、マスコミ等では成績上位の県のベスト幾つとかという、そっちに話題が行ってしまう傾向があるような気がするのですけれども、これを始めるときに教育長が、やったことはきちんと説明しましょう、成績を競うという目的ではなくてというお話でした。本当にそうだなと思って4年目に入ったわけですけれども、4年間やってみて、これからもやるのですが、変化を感じている部分が何かあれば教えてほしいなと思います。

○内野市長 平井先生。

○平井委員 実施してからもう4年ということで、ある程度海老名市の方向というか、子どもたちの状況が把握できてきているのかなと思います。その中で、各学校の傾向も出てきていますので、そのあたりのところは各学校がここで一度、きちんと子どもの学習、学びの状況を整理する時期でもあるのかなと思います。

それと教育委員会のほうでも少人数や補助指導員、いろいろな形で施策を打っています。その施策が学校の子どもたちへの指導と合致しているのかどうかということも、1つ見直していく必要があるのではないかと思います。相当の人的な補助を入れていますが、子どもたちの学力の向上に果たしてつながっているのかということも、学校や教育委員会がもう一度見直していく必要があるのではないかと思います。

あとは苦手なところが出てきていますので、そのあたりを今後どういうふうに子どもたちに教え込んでいくのか。今、海老名市では小中一貫を始めていますので、そのところが大きなつなぎになっていくのかなと思います。小学校と中学校が今後連携して、どういうところから手をつけていくのかということも今後の話題にしていただけたらいいのかなと思います。

○内野市長 ここで、保護者の方がいらっしゃると思いますけれども、PTAの方はいらっしゃいますか。手を挙げてください。一番関心ごとだと思ふのですよね。思ったことを

言ってください。名前は言わなくてよいですから、はっきり言いたいことを言ってください。

○傍聴者 今回初めて参加させていただきまして、こういうことをやっているという状況がなかなかわからなかったので関心はあるのですが、将来の子どもを見据えた上で、今このグラフの7角形の中で、地域・社会への関心が低いというのは、こういうところにたまに参加する者としては残念だなというのがあります。それと市長さん、教育長さんなどの中で特にこの先どこを伸ばしてあげるのがよいと考えているのかなということに関心があります。ありがとうございます。

○内野市長 ほかにございますか。言えばよかったなと後で思っても遅いですよ。ここはこれで終わりますから。よろしいですね。

では学校の先生から何かございますか。小宮先生、この結果については、各学校等に全部行っているわけ？ 小学校は中学校のも行っている？

○教育部参事 細かいものは行っていないのですが、共有はしております。

○内野市長 共有している。そうしたら全国平均はこうで、神奈川県 averages 平均はこうで、海老名の平均はこうですよ。あなたの小学校はこの平均以下ですよ、平均より上ですよ、全部行っていますよね。

○教育部参事 はい、学校同士は全部の学校の傾向を。

○内野市長 校長先生、全部を踏まえていますね。そうすると、どこが一番悪いかというのはわかるわけですね。それを踏まえて、今、教育委員の方からも1つの貴重な意見として、行政が取り組んでいることが、子どもの学力の向上にどうつながっていくかという問題が1つあると思うのですね。お金を使って学校の環境をよくしようと。それがどう結びついているか。あるいは小中の連携というのも1つの課題だと思いますけれども、地域の問題は相当出ていますから、これはみんな共通していることで、どういう形でいくかというと、一例を挙げますと、13万1,000人の市民がいて、自治会は59あります。59の自治会で組織率が悪いのは、皆さん、北部のほうが悪いと思うでしょう。はっきり申し上げて南部のほうが悪いのですよ。南部が悪くなっています。

昔、自治会加入が8割とか9割になったのですが、南部のある地域へ行きますと6割もいかないということになっています。ところが、北部の中央のマンションは100%という自治会の加入率もあります。昔は地域性を持っていたのですが、そうしたいい面が徐々にこういうふうにも子どもたちにもあらわれているのだと、つくづく今回感じ

ました。私ども市としては地域ファイルというのをつくりまして、各自治会の加入率とかそういうものも公表しておりまして、これが私どもは市の課題だと思っていますから、その部分では学校としても教育委員会としてもそういった面が出てきていると思っています。

先ほど、市長として将来をどう思うかと。私はこれを見たときに——私の意見を先に言うのは何でかという、学力ですからこっちに最後は委ねますけれども、小学校から中学校へ学習意欲は高まっていると思います。成績も高くなっている。これはよいことだと思います。だからどんどん伸びると思いますけれども、一番大事なやはり地域性の問題とか、人と人の触れ合いとか思いやりとかそういった問題であります。しかしながら、私も学校を、19校中、全部は行っていませんけれども、ポイントポイントへ行くと、南部の小中学校の——中学校といっても1校しかありませんけれども、私たちに對する挨拶とか接し方は、はっきり言って北部に比べたら南部のほうがよいです。これははっきり言えます。

そういった部分では、よい面は絶対あるのだなと思いますけれども、どこでも大きな課題はスマホとか携帯とか、学校と教育委員会ではどうにもできない問題があります。これは保護者が買うときに約束事をしっかりして、守れないときには解約するぐらいの決意でやらないと終わらないのではないかと。だけど、スマホと携帯がないと、今はすべてが通じませんから。そういった面では、どういう約束事でやるかというのは問題ではないかと思えますけれども、それを学校と教育委員会で何とかしてくれといっても、スマホと携帯の抑制はできないと私は思いますので、その部分は家庭の中でどう考えるかということは、PTAの皆さんもいますから、ひとつそういうことを題材にして検討することも必要ではないかと私は思います。

あとは教育長のほうから。

○伊藤教育長 先ほど保護者の方からどこが大事ですかとありましたけれども、このクモグラフを見ていると思うのですが、私は一番よい形になってほしいなと思っています。そんなに飛び出ていなくてもいいから、へこむところがないように。7角形の青の線の上でもいいし下でもいいけれども、同じ形になるのが一番理想的かなと思っているところでございます。

先ほど岡部委員さんから、総括としてどう考えるのですかとありましたけれども、4年間やってきて、何かの課題があったらみんなでそれに立ち向かう、一緒になってできると

いうことの取り組みが、それまで例えば教育委員会でテストとかなんかを全国的にやっても、それはそのままだったのですよ。それでおしまい。よかったね、悪かったねということだけだったので、今、例えば本当に具体的に漢字が書けないなら、海老名市の子どもたちが大人になって、やはり漢字はわかったほうがいいし書けたほうがいい。それは受験とかそういう意味ではなくてですよ。何かの知識を得たほうがいいというのだったら、市全体でそれを取り組んでみるとか、みんなで取り組む。そういう取り組みを教育としてやっていく、そのためのもので1つあるかなと思います。だから結果は結果ですけども、方法論として課題をどうやって解決するかを、例えばここに出てきたものを教育委員会ではできない、学校の先生たちも一緒にやる、子どもたちも協力する、保護者、地域の方もやる、これをもとにそういう取り組みを重ねて、また結果が出て、取り組みを重ねて、こういう循環ができることがテストの目的の1つだなと私は考えています。

そして誰しも、子どもたちのことを思ったら、全国と比べてどうこうではなくて、子どもたちも書けるようになったほうが楽しいし、勉強はわかったほうがうれしいし、そういう子どもたちをどんどんつくり上げていきたいと思っています。

そういう意味で、この結果をまた分析して、次にまたみんなで取り組む、それだけは明確にして、それを示してまいりたいと考えていますので、結果に一喜一憂するのではなくて、市長さんが言うように、子どものよさとか学力とかは多面的に見られますので、点数が悪いとかよいという問題ではなくて、ただ、常に我々は何かを改善しなければいけないという意味で、みんなで取り組んで、よりよくしようと、そういう動きを結果の1つとして常に毎年取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

○内野市長 それでは、総体的に傍聴人の皆さんからありますか。

ないですか。では次に進んでもよろしいですか。

これにつきましては、1つは問題提起として、教育予算を使っております。TTとか、少人数学級で大きな予算を使っているのですね。これは子どもたちの学習環境をよくしたいというのが1つあって、そこには学力が上がるということも1つの目的があると思います。平井先生が言ったとおり、子どもたちのためにどうだったかということを検証しながら、予算を見直すなら見直す、あるいは今回の成績で、19校あるわけですから、来年国語だけはよくしたいと思うならば、そういう予算が学校から上がってくれば、うちのほうもそういった部分で協議をしたいと思うのですね。

学力におけるこの問題について、各学校で相談をして、こういったものをやりたいとい

うものがあれば市教のほうに言っていただいて、教育委員会で議論して、予算が伴う問題については市としても協議をしていきたいと思っておりますので、これにつきましては予算編成というのは1月の中旬で市長査定が終わってしまいます。12月に大体終わるのですね。だから、ここはある程度成績がわかっているわけですから、学校側もこの部分についてこうやりたいというものがあれば上げていただきたい。全く上がらないということは、このままでいいのか、この中でうまくやるかという問題しかないと思っておりますので、それぞれの先生方が十分協議をして、校長が中心になってまとめていただきたいと思っております。よろしいですか。

○内野市長 それでは続きまして、協議事項(2)に行きたいと思っております。部活動のあり方について、これにつきましては中間報告ですから、よろしくお願いたします。

○教育部長 それではご説明いたします。海老名市教育委員会では海老名市立中学校におけるよりよい部活動のあり方について検討協議しまして、市としての方針を定めることを目的に、今年度、部活動検討委員会を設置いたしました。

委員会のメンバーでございますが、教育委員会の産業医でもある整形外科の医師、体育協会の代表、部活動外部指導者、PTAなど合計14名で構成しております。

この委員会の検討項目は4点でございます。①部活動のねらいについて、②活動日数と活動時間について、③外部指導者について、④医療との連携についてでございます。

今年5月からほぼ月1回のペースで会議を開催しております。なお、この検討に先立ちまして、保護者へのアンケートを実施しましたので、その結果をまずはお知らせしたいと思います。アンケートは今年6月、市内6つのすべての中学校、各学年1クラスを抽出しまして、その保護者約600人を対象に行ったものです。484人、約80%から回答をいただきました。

結果ですが、まず所属の状況として、生徒の89%が部活動に所属しています。さらに、そのうちの71%が運動部、29%が文化部となっております。

1週間の活動日数ですが、7日が37%、6日が31%、5日が14%などとなっております。朝練は5日、つまり平日のうち毎日行っているというのが13%、続きまして、4日が26%、3日が22%、2日が14%でした。

次に、活動の日数についてどのように感じているかということをお尋ねしたところ、「多すぎる」が39%、「少なすぎる」は11%、「現状でよい」が50%でした。また、時間

につきましては、「長すぎる」は27%、「短すぎる」は14%、「現状でよい」は59%となっています。また指導方法につきましては、75%が適切であると回答しております。それから故障の経験の有無につきましては、23%が「ある」と回答しております。そして部活動は生活充実のために必要であると思うかの設問には、97%が「そう思う」「少し思う」と回答しています。

それでは、この結果も踏まえた概要につきましてご報告いたします。

まず1つ目のねらいについては、3点でございます。1点目、自分の目標や課題に向かって粘り強く努力し、それを克服して達成感や成就感を味わう中で、自主的に自分自身を高め、よりよくしようとする力を育てる。2点目、同じ目標に向かって、仲間とともにお互いに競い、励まし、支え合って活動する中で、つながりを広げ、絆を深めることの喜びを味わい、多くの人と進んでかかわり自分を発揮する力を育てる。3点目、生涯にわたって心と体の健康に関心を持ち、主体的にさまざまな活動に取り組み、自分や自分たちの生活をより楽しく豊かなものにしようとする力を育てる、でございます。

2つ目の活動日数と活動時間につきましては、画面、上の部分の3項目、週1日の休養日を設定する、始業前の朝の活動は週4日以内とする、夏季休業中は3日以上連続休養日を設定する、これを規定として設定すること。また、下の2つの項目、土日の活動については、両日活動する場合でも、どちらかは半日以上休養時間を設定する、長期休業中の活動については終日活動の連続は2日までとする、これらを生徒のけがの防止ですとか精神的な負担への配慮の視点から配慮事項として定めることとしています。

ただし、この中で大会の日程など休養日を規定どおりに設定できないことがあります。その場合は、市内統一で基準を設定しまして、それに基づき、学校長が許可する方向で検討しております。これらにつきましては、今後、校長会や種目の代表顧問が集まる会議の場などでも協議しまして、案を最終決定していく予定でございます。

続きまして、活動の日数と時間の管理方法です。3点、①顧問は月ごとの活動計画書を作成する、②校長は、顧問が作成する月ごとの活動計画書の内容を確認して、特例措置を含めた活動状況を管理する、③顧問は活動計画書を生徒・保護者に配付する、この3つでございます。活動計画書につきましては3年間保存しまして、正当な理由で文書開示の請求がある場合は、それに対応することとしております。

そして3つ目の外部指導者についてです。現在、56人の外部指導者に部活動の指導をお願いしておりますが、顧問の教員の負担の軽減、それから指導方法の改善が求められる世

界全体の状況の中で、新たに顧問にかわって活動計画を立てる、土日の大会への引率をするなどの役割を担っていただく部活動専門指導員を導入したいと考えております。これは学校長の推薦を受けて、教育委員会が主催する事前研修等を受講してもらった上で、名簿に登録して派遣するものでございます。なお、従来の外部指導者は部活動サポーターと位置づけます。

最後に、4つ目の医療との連携でございます。整形外科医師が年1回、学校を訪問して、運動部の顧問や部員を対象に講話などを行うこと、そしてスポーツトレーナーを派遣して中学生の体の特性に合わせた効果的なトレーニング方法、ケガの防止方法を指導する、この2点でまとめていく予定でございます。

最後に今後のスケジュールでございますけれども、次の金曜日、11月24日に第6回の会議を行います。この中で検討委員会としての報告案を決定しまして、教育委員会で方針案を協議決定した上で、2月から活動時間とか日数の管理につきましては、まず試行をしまして、最終的に30年度、来年度の4月からすべての中学校でスタートさせたいと考えております。

○内野市長 これにつきましては、一番重要なのは15ページ、16ページ、17ページだと思うのですが、教育委員さんはこの内容は本日初めてですか。ある程度中間報告はいただいていますか。では、教育委員さんはこれについては是としているということでしょうか。これから各校長とか部活動の顧問の先生、保護者にも聞かないといけないと思うのですが、その協議を踏まえて1月に決定するという考え方でよいと思うのですが、これについて何かありますか。

○海野委員 この報告書ですごくよいなと思った感想なのですが、医療との連携についてということが出されていますよね。子どもたちの健康状態を把握して、先生方と相談しながら部活動を進めていくという点が、今回すごくよいことというのはあれですが、これから成長期の子どもたちにとって必要なことだと思います。また、精神状態を含めてこういう先生方と相談しながら部活動を進めていくということは、とてもよいことだなと思いました。私の感想です。

○内野市長 ほかにありますか。

○松樹委員 今、海野委員さんも言われていましたけれども、医療関係、そして外部指導者のことが明確になってきておりますので、よかったなと思います。

ただ1点、きょう有馬中学校生徒もいらっしゃいますけれども、これでよいかなど。実

は出てきている中で、部活動というのは生徒の主体性とか自発的にやっているのだと私は思うのです。子どもたちの声をもう少し反映させていただければなど、希望的なものがあるので、生徒さんがいらっしゃるので、これを聞いてどう思うのかなというのを、この場でなくても構わないのですが、聞いてみたいと思います。

あと休養日の規定が出てきておりますけれども、部活動によっても、運動部、文化部、そして大会前とかいろいろな状況が出てきていると思いますので、この辺も少し柔軟にさせていただけたらと思います。そんなことを思っている次第でございます。感想でございます。

○内野市長 ほかにはよろしいですか。

○平井委員 今回この検討委員会に整形外科医等、各分野の人たちを入れてくださったというのがすごくいいかなと。幅広い視点で検討ができているような形で、内容的にも充実してきていますし、海老名市としての形が定まってきているのかなと思います。

ただ1点、私が少し気になるのは外部指導者で、部活動専門指導員さんの導入はすごくよいことだと思うのですが、その中で顧問にかわって活動計画を立てるといふようなところがここに入っているのですが、学校と指導者とのずれが出てこないのか。そのあたりのところを丁寧にやっていかないと、そのしわ寄せが子どもに来るとしたら、懸念するところであるので、丁寧にやっていただきたいなという思いを持ちます。

○内野市長 岡部委員。

○岡部委員 私も今の報告を聞いて、大体伺っていますので、この部活動について海老名市はいち早くスタートしてきていると思います。昨年、教師と生徒のアンケート調査をして、今回、今報告にありました保護者のご意見も伺っているということで、特にみんなから出た医療面からの切り口を大切にしているというのはとてもよいなと思います。何よりも子どもにとって楽しい部活、頑張りたい部活になるように新年度に向けて準備を進めていければと思っています。

○内野市長 1つだけ、スポーツトレーナーと言うのですけれども、私は定期的に整体へ行っているのですが、その整体に行っている患者さんのうちの半分以上は子どもなのです。特に小学生が多い。小学生も少年野球とかスポーツをやっている人はたくさんいるのです。だから、これは中学校だけではなくて、小学生にも視点を持たないと、こころは文化・スポーツの担当になるかもしれませんが、少年野球、少年サッカーといろいろありますが、ここをどうやっていくかという問題も含めて、子どもたちの健康の問題という

のはケアをお願いしたい。それが1つあります。

部活動は私、これでよいと思うのですけれども、1つだけわからないのは、今言われた顧問と外部指導員の連携をどうやってつくっていくか、ここが1つ重要。

それからもう1つは、学校顧問の独自性と、先ほど言われた生徒の自発的な練習、これをどうやって整理するかということと、この計画に市教がどうやって関わるかという問題です。学校がオーケーならばオーケーですよというのではなく、市の教育委員会がある程度絡まないと。しかし、独自性とか自発性を阻害しないように、それを踏まえながらどう関わっていくか。ここについては2月に一部試行をやりますので、顧問がいるところといないところできっかりと試行をやらないと、はっきりわからなくなってしまうのではないか。だから一番やりやすいところでやるのではなくて、外部指導員が主体でやっているところをモデルに1校と、普通の部活動をやっているところを1校とか、何校かやらないとモデルが出てこないと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

あとは組織的に保護者の意見を聞いたり、生徒の意見を聞くことも必要だと思いますので、どう意見集約をするか、これが大きなポイントになります。その辺は教育長の判断とか教育委員の判断に任せていきたいと私は思っていますので、よろしくをお願いしたい。

それからもう1つ、試行を2月にやると、こういう予算がかかるという問題が出てきますよね。2月ではもう予算は決まっていますから、そうすると6月補正か、遅くても9月補正に予算を出さないといけない。子どもたちの関係ですから、早目にやってあげたいから、その部分は6月なら6月に財政当局と話し合いながら、しっかりとフォローをするようにしていただきたいと思います。

教育長、よいですか。保護者の皆さんはありますか。中学校の校長先生、よろしいですか。

○有馬中学校長 今回の検討委員会の副委員長を務めております。また、中体連の海老名市の会長を務めております。部活動については、今、各顧問に任せる時代から、みんなで子どもたちを見ていこうという時代になりました。そういう意味では、1つ子どもたちが、先ほどのねらいの中に、心と和というかチームワーク、人との関係と勝ちたいという課題と、この3つが丸くなるかどうか。勝つことだけに行ってしまうたりとか、チームワークで仲よくやればよいとかそういうことではなくて、適正な運営がどこまでされるかというのがこれからの時代の部活動かなと思っています。そういう意味では、先ほどの形をいかにみんなで相談をしながら行くか。

もう1つは、顧問の問題があります。顧問の体制もあるのですが、部活動は業務ではないので、仕事ではないので、残業という捉え方はしません。あくまでももう1つの仕事であるという形になっております。その中で外部指導者の人にもぜひ応援をしてもらいたいということがあります。まだまだ難しいかなと思います。今の顧問の若い人たちでさえ、どこまで適正な運営ができるかというのは問題なので、新しい人を入れて、そこをお互いに確認しながらできる体制をとらないと、うまくいかないかなと思っています。

いずれにしても、保護者の力をかりないといけないということと、それぞれの意見を相談しながら、子どもたちの将来に向けてよい教育ができるような形、先生たちも部活動にちゃんと目を向けながらも教育活動ができる状態を適正にできるような形を取り組んでいきたいと思っています。

○内野市長 ありがとうございます。部活動につきましてはずっと議論してきて、ここでやっと中間的な方向性が出ました。これにつきましては、来年から教育委員会で1月に決定する前にいろいろな会議を開いていただいて、周知というか、理解を求めていく。いろいろな意見を出していただいて、1月に教育委員会で方向性を決定して、2月から試行的にやる。4月まで2カ月ありますから、そこで少し直すことがあったら直していただいて、正式に来年の4月からスタートするという形で方向づけてよろしいですね。

では、そういう形でスケジュールを進めていただきたいと思います。保護者の皆さんも本日いらっしゃいますので、どうかご協力をお願いしたいと思いますし、意見がありましたら各学校をお願いしたいと思います。また、地域の方がいらっしゃって、僕はサッカーが得意だ、剣道が得意だと、いろいろな方がいらっしゃるとは思いますけれども、お手伝いとか部活動専門指導員に手を挙げていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○内野市長 それでは、(3)有馬中学校生徒からの学校に関する要望・提案についてを議題とします。よろしくお願ひします。

○教育部次長 それでは、ここでレイアウトの変更を行います。会場の皆様はしばらくお待ちください。

(レイアウト変更)

○内野市長 それでは協議事項(3)有馬中学校生徒からの学校に関する要望・提案についてを議題とします。

こちらにつきましては、司会を事務局に戻します。よろしくお願いいたします。

○教育部次長 ありがとうございます。それでは、改めまして協議事項(3)の有馬中学校生徒からの学校に関する要望・提案についてご説明をさせていただきます。

当協議事項につきましては、冒頭でお話をさせていただきましたとおり、有馬中学校の生徒の皆さんが直接、市長あるいは教育委員の皆さんに学校に関する要望・提案をしていただき、その要望・提案事項を受けて、市長、教育委員の皆さんにご協議をいただくというものでございます。

この協議の狙いでございますけれども、学校のことを大人の目線だけではなくて、子どもたちの新しい、あるいは柔軟な考え、そして夢のある提案等をお聞きし、教育施策の参考にしてまいりたいというものでございます。

それでは、改めてご紹介をさせていただきます。有馬中学校の生徒の皆さんです。皆さん、大きな拍手をよろしくお願いいたします。（拍手）

それでは、有馬中学校の皆さん、改めてこんにちは。このたびは総合教育会議に、休みの日だけでも参加していただきましてありがとうございます。また、要望事項についてもまとめていただきました。重ねてお礼を申し上げたいと思います。

今回、生徒6名の皆さんに、自分たちの学校に関する要望を用意していただいております。それでは早速、生徒の皆さんに発表をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○有馬中学校生徒1 こんにちは。有馬中学校3年1組、生徒会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

僕からは自習室の設置や濡れたかっぱを置く場所の確保、生徒が自由に使えるスペースの確保、食堂（バイキング形式）の設置などのためにD棟（新校舎）が欲しい、また雨漏りがひどく室内が涼しくないため、新しい体育館を建築してほしいということと、部活動（外部活）をするときの仕切りをつくってほしいという2つのことについて提案したいと思います。

○有馬中学校生徒2 こんにちは。私からの提案は2つあり、1つ目は校内にエレベーターを設置してほしいということと、2つ目は、地域の方、他校との交流をふやしたいということです。

○有馬中学校生徒3 こんにちは。私からの提案は2つあって、1つ目は、グラウンドに芝生を植えて部活動の活性化と、グラウンドにある外トイレをきれいにしてほしいという

ことと、自転車通学の範囲を拡大してほしいということです。

○有馬中学校生徒4 こんにちは。私からの提案は、学校に自動販売機、お茶とスポーツドリンクと水だけでいいので、それを置いてほしいのと、先生が有中生が全員、勉強してないと決めつけないでほしいということについてです。

○有馬中学校生徒5 こんにちは。私からの提案は、放課後などに誰でも自由に使える自習室をつくり、そこに参考書を置き、可能であれば先生についてもらいたいということと、合唱祭練習のために各クラスに電子ピアノを置いてほしいという2点です。

○有馬中学校生徒6 こんにちは。自分からは2つ提案をさせていただきます。

1つ目は学習に関する事で、2年生と3年生の数学と英語の先生を2人体制にしてほしいということと、もう1つは部活動に関する事で、部活動のときに中学校の体育館だけでなく、小学校の体育館やいろいろな教室を使わせてほしいことです。

○教育部次長 ありがとうございます。

それでは、生徒の皆さんの発表を踏まえていただきまして協議をお願いしたいと思えます。進行につきましては、内野市長、よろしくお願ひいたします。

○内野市長 これは私が進行するのは難しいよ、予算権者だから。私がどんどん答えを言ってもよいのだけれども、それではまずいでしょう。

よい意見だと思うの。まず自動販売機をつけたいとか食堂にしたいと。市長さんも教育委員会に自動販売機を置いてくれと言ったのですよ。言ったら、教育委員会はだめだと言うの。何でかというとお金を持ってくるのはだめだと言う。成岡校長、私に言わなかった？ 言ったでしょう。私、あのときに言ったのですよ。子どもたちが、中学校は特に部活動があるから、飲むものは蛇口の水道だけではなくて、ワンコインで、100円とかそういうもので飲めるようなものを設置してもいいのではないかと言ったら、いや、お金を持ってくるといろいろな問題が出るからだめだと言われたのですよ。

そういうように、いろいろな意見があるけれども、私と全く同じなのですよ。中学校は改築とかこれから新しくした場合は、食堂をつくりたい。給食をやめて、食堂で自分たちが食べたいものを食べていくという形にしたい。そこには売店もあるという形にしたいのですね。そういったことを1つの方向性としては持っているのです。有馬中学校は南部で唯一の中学校だから、絶対廃校にはならない。だけど、あの場所でもいいか悪いかという問題はある。

自転車の問題もあるでしょう。自転車も拡大してもよいじゃないかと。道路を挟んで、

向こうは、自転車はだめだけれども、こっちはよいんだという話があって市長への手紙が来たのですよ。学校の先生に聞いたら、それは規則だからこういうあれだからと。全部自転車はオーケーにしちゃったらと言ったの。私はそういう考え方なの。だけど、責任は皆さんにもあるのですよ。お金を持っていったときに、きちんと管理をするとか、そういったことがないと、いじめとか事件につながっていく。自転車もそうですけれども、自転車をオーケーにしたときに、きちんと交通ルールを守っていくんだという自信を持っていけば問題はないと私は思います。こういった枠を決めているのは私ではなくて、そちらですから。私はそういう考え方です。

○伊藤教育長 ありがとうございます。それを言うだろうなと思いました。でも、子どもたちのさまざまな意見を、これ以外にもたくさんあるのですけれども、素直に聞いていると、子どもたちの発想というのはそれで、実を言うと、私は前有馬中学校校長ですので、そのときに自動販売機を置こうと必死になって努力したのですけれども、いろいろな制約があって、目的外使用の料金を払えとかなんかでアウトになって、その後、PTAかなんかに置いてもらおうかなとかいろいろ考えたりしたので、こうやって聞いていると、子どもたちの発想というのは本来の子どもたちの、例えば給食にしても、今は弁当のそれをやっているのですけれども、食堂で食べたいと子どもたちは思っているのだとか、自転車の通学範囲を広げたいのだとか。でも、スクールバスだったらいいの？ そうやって市長が言ったように、自動販売機をやったらお金のことを先生たちは心配するから、それは自分たちでちゃんとやるとか、そういうやりとりがないとできないのかなとは思っただけけれども、そういうことを今出したでしょう。話し合いのテーブルにのるから、そういうものをどんどん先生たちに言うとかは大事だと思うよね。

○内野市長 基本的には、給食に牛乳が出るでしょう。寒いときにも牛乳が出るでしょう。夏も牛乳が出るでしょう。私は牛乳は大嫌いなのです。小学校のときに牛乳で不登校になったの。だから牛乳を飲ませるのではなくて、自由な、健康なものを飲むようにすればいいわけですよ。例えば牛乳が飲みたい人は、メグミルクが海老名にあって、市役所にも牛乳の販売機があるのです。だから給食費を払っているけれども牛乳を飲みたい人、お茶を飲みたい人、コーラはまずいと思うけれども、そういった健康なものだったらそこで自由でいいなと思っているのですよ。学校にお金を持ってくるといった問題が教育委員会で整理がつかないだけ。

だけど、そんなことを言っても、皆さんに聞きたいのだけれども、学校へ来るときにお

金を一銭も持ってこないの？

○伊藤教育長 そこにもいるから言えないよ。持っているよね。

○内野市長 お金はある程度持っているでしょう。

○伊藤教育長 本当に持っていない子もいるし、持っている子もいるのですよ。

○有馬中学校生徒 公衆電話のための10円ぐらいは持っています。

○内野市長 10円？

○有馬中学校生徒 はい。お金を持っているかと今聞かれたのですけれども、僕自身は公衆電話に使うときの予備の10円と、お金になるかわからないのですけれども、テレホンカードだけを持っています。

○内野市長 Q U Oカードは持っていないの？ コンビニに寄らないの。

○有馬中学校生徒 生徒によるのですけれども、登校途中にお弁当を買ってくる人もいれば、水筒の中身がないときにペットボトルを買ってくる人もいるので、有馬中学校にお金を持ってくる人はいないということではなくて、何円か持ってきている人はいます。

○内野市長 保護者の皆さんは昔を考えて、途中、中学校からそのまま帰らないで、ラーメンを食べた記憶がある人はたくさんいるでしょう。私もそういうタイプだったから。有鹿小学校の河原口から海老名中学校まで行って部活動をやったときは、有名なセイカエンという中華料理屋へ寄ってご飯を食べて帰っていったから。ありますよね。給食がなかったから、買い弁をしょっちゅうしていたからお金を持っていったのだけれども、学校でそこら辺の問題だよ。

お金を持って行っていいというのだったらそれができるし、コイン制度にして後でやるか、あるいは自動販売機で今、ICTだからカードをやると自分のところに精算が来るとか、そういったことはやろうと思えば何でもできるのではないか。今、携帯で物が買えるではないですか。

だけど、学校に携帯を持ってきてはだめなのだよ。それもおかしいのではないかなと思うのだけど。携帯を持ってきてもいいけれども、登校したときには携帯をそれぞれの袋に入れて預けるといっていいのではないかなと思うのだけど。1つだけ大きな問題があるのは、学校の授業に支障があるから携帯はだめだというのだけれども、何かあったときに連絡をどうやってとるのかという問題。学校にいるときは学校の先生がオーケーだと言うのだけれども、学校の先生が帰って部活動をやっているときにどうやって連絡をとるか、帰りがけにどうやってとるかなんです。今全部GPS機能が入っているから、携帯を

持っていればどこかへ行くのは絶対わかるのですよ。それがだめだと言うなら、GPSの機能にしたのは何の意味があるのかなと私は思う。

だからどうやって管理をするかの問題ではないか。危険とか不安があるものを全部排除するのではなくて、あるものをどうやってやるかということが、さっきのスマホと携帯になるのではないか。学校もそれを排除して持ってくるなどすれば、それは先生方も楽だと思いますよ。だけど、持ってこさせたときに、中学生などは特にそうなのだけれども、それをどうやって管理して、それをどうやって生かすかという問題ではないか。そうしなければ携帯を持っている意味がないではないですか。GPSもあるし連絡もあるし。LINEだって家に帰らないと連絡がとれないでしょう。それを私は1つ思いますよね。

スマホも携帯も子どもたちのほうが進化をしているのですよ。そこを十分理解してもいいのではないか。そこで始まってしまうのですよ。携帯では今、何でも買えるから。そこで買わせればよいのではないかなと思うのだけれども、その管理とか生活の部分でどうかという問題は、教育委員会と学校で考えていくべきではないかと思いますけれどもね。

○伊藤教育長 要するに子どもたち、前の上星小学校も、この有馬中学校の子たちも呼んで話してほしいのは、実を言うと我々教育委員会というのは、昔の教育委員会とは違いますが、学校もそうなのだけれども、少し社会と隔離し始めているのですよ。その中で子どもたちは違うことを考えている。学校の制度とか教育委員会は本当に社会とすべて合致しているのかというと、少しずつが始まっていて、そういうものは実を言うとそんなに簡単には直らなくて、でも、こういう子どもたちの声を聞いたり論議したり市長さんのご意見を聞いたりする中で、いろいろな細かなことも考えてもよいことなのかなと私自身は思っているのです。

自動販売機1個に対して、各校みんなで論議して、よいものかどうかということで変えることが、実は学校が少し社会と隔離し始めているとか、社会と一体にならないという部分を埋めていくのかなと。第三者的で申しわけないのですけれども、私は自動販売機はあってよいと思っている人間ですから。そういうふうになっている、でも、それを変えるにはこうやって出してもらって、こっちの方から言ってもらっていろいろ言うとおもしろいかなと思ったりするのですけれども、教育委員さんもいるので、教育委員さん方の会議なので、教育委員さん方が中学生に質問したいことがあったら聞いてもらってもよいですか。

○内野市長 どうぞ。

○松樹委員 ほかの項目でもよろしいでしょうか。

○内野市長 まず自動販売機からいきましょうよ。そこが意外と原点なのです。

○松樹委員 原点ですか。私も、現金の取り扱いというのが現場の先生たちも困ってしまうのだと思うのです。なくなったとかですね。あと今スマホの話がありましたけれども、では持っていない子はどうするのだとか、壊れたらどうするのだとか、いろいろな問題が出てきて、基本的に私は要らないかなという気はします。

自動販売機については、成長段階の中でお茶だとか水だとかというのは必要なのだと思います。今、自由に飲めるといいますか、家庭用のものも業務用の大きいタンクがあったりするわけじゃないですか。あれを職員室の前に置いて、子どもたちに自由に飲んでもらったりというのでもよいかなどという気はしていますし、あえて買わなければいけないのかなど。その部分は何か、普通の水道水は来ていますので、気になるのだったら浄水器をつけてあげて、その水を飲んでもらうとか、お茶だったら専用の機械が、メーカーはちょっと忘れてしまいましたけれども多分あるのだと思います。子どもたちにどうぞと自由に飲んでもらうという形でもよいのではないかと思います。

○内野市長 平井さん、どうぞ。

○平井委員 今までの学校生活はもう通用しない時代に入っているだろうなとも思います。ここのところ熱中症や何かも結構学校で出ていますよね。ですから水分補給とか子どもの健康を考えたら必要だろうなと思うのですが、学校集団の中で何百人という生徒、児童が生活する中では、1つの規範というかきちんとした規則を持たないと、例えばお金1つとっても、そこに先生たちが対応していくのはなかなか厳しいかなと。ですから、そういうところをクリアするには、先ほども私どもで話をしていたのですが、例えばコインにするとカードにするとか、そういうふうな形で工夫ができるならば、それは学校に設置しても構わないかなと。そこのあたりをどこでよいしょと、腰を上げてやるかというところではないかと思います。そういうところがクリアできれば、学校に自動販売機の設置も十分可能になるし、つけたいなと思います。

○内野市長 よろしいですか。ほかのことにしますか。それでは、自由にやりましょう。

○傍聴者 今、子どもたちの言っていることは結構社会の縮図なのではないかと思っています。今、自治会をやって感じることは、我々が子どもたちのときというのは、学校から帰る、遊びから帰ってくると、いつでも親がいて、おじいさん、おばあさんがいたわけですよね。現状は、核家族の子どもになっていると、家に帰っても誰もいない。兄弟もいな

い。それで学校から帰って勉強したい人は勉強して、文化部に入って、暇をもてあまして体のある人は運動部に入っている現状かなというのは感じられます。それで今、コミュニティセンター（以下、コミセン）のほうの役員もやっているのですが、コミセンの総会でいろいろ発表されるのですが、学校が終わってコミセンに来て勉強をやっている子がいると。これはいいことじゃないかと、だから学習室もあってそういうことで広めております。学校ができないことを地域のコミセンで勉強したい子が勉強しているという現実があります。学校だけでは今もう押さえられなくなっているのではないかと思っていますのですね。

ですから今、生徒さんの中で放課後、実習室を使いたいと。これに関しては、何か事故があったときのことを考えて、大人たちはよしてくれという方向に行くかもしれませんが、学校も定時間で終わるだけではなくて、それ以外の時間もある程度開放して、勉強したい人はする、運動をしたい人はできるような形を地域の取り組みの中で行っていくほうがいいのではないかという気が少ししております。部外のほうから申しましたけれども、そういうことを広く検討していってもらいたいと思います。

○内野市長 ありがとうございます。ほかには委員さんは。

○海野委員 この有馬中学校生徒の意見書を拝見して、有馬中生はずごく向上心が強くて燃えていらっしゃることに感動しました。皆さん、素晴らしいですね。そういう中で1つだけ伺いたいことがあります。生徒さんの意見で、地域との関わり合いをふやしたいので、生徒会等で地域の人のお手伝いをしたいということなのですか。

○有馬中学校生徒 地域との関わりについては、個人の意見なのですが、私は障がいを持った方ともっと交流したいとか、高齢者の方と交流したいとあっていて、小さいときからそういう人とかかわっていたら、社会に出てもそういう生活が当たり前になると思うし、自分自身、成長することができると思うので、そういうかかわりを増やしたいということと、他校との交流は、ほかの中学校で出たよい意見を自分の中学校に持って帰って、自分の学校をよりよくするために生かしていく形で活動したいと思ったので、この意見を出しました。

○海野委員 ありがとうございます。そういう内容を生徒会で話し合ったりはしないのでしょうか。

○有馬中学校生徒 これは生徒会に大きな案としてまだ出ていないので、話し合いはして

いないのですけれども、これからそういう機会とかがあったら話し合いたいと思っています。

○海野委員 ぜひ実現させて、地域の方ともっと触れ合うような機会をつくっていただければと思います。お願いします。

○岡部委員 今のお話、とても心強く伺いました。ぜひみんなで話し合いをして、実現に向かっていけばよいなと思います。

それとさっきの自販機にまた戻ってしまって恐縮なのですが、本日出ている自動販売機のことを言った方以外も、どれぐらいの皆さんがそういうふうに思っているのか。例えば生徒会とかで話し合いはしたことがありますか。

○伊藤教育長 自動販売機はあったほうがよいと思う人は手を挙げて。

○岡部委員 本日6人出ている人はみんな全員そうですね。いけないと言われているから、ないのだけれども、あったほうがよい。一番の学校の主人公である皆さんは、では、ほかの人たちはどうなのか、いや、そんなのではないほうがいいよという人もいるかもしれませんね。だから、その辺少し話し合いをして、では、大人の人が心配しているお金のこととかいろいろなことは、こういうふうにしたらいいのではないかと、そういう話し合いもしてほしいと思うのですよね。そして先生とか教育委員会とこんなふうにしたらどうだろうかという、そんな提案につながっていけばよいかなと思いました。

○内野市長 今の話はわかりますか。自分たちが方向を決めて、自分たちが管理をしようよという気持ちがあれば、学校も動くのではないかという話なのですね。だから、その問題なのです。そうすると、お金もどうするのかとかいろいろな問題が出てくると。

ほかにはありますか。

○平井委員 2年生と3年生の数学と英語の先生を2人体制にしてほしいという提言をされているのですが、もう少し具体的にお話をいただけますか。

○有馬中学校生徒 自分たちが1年生のときに、数学が少しできる人たちと苦手な人たちで、先生2人体制でコースとして分かれていたのですけれども、今、自分が3年生になって思うのが、特に数学と英語が、できる子とできない子の差が離れていて、できる子にとってはもっと早く進みたいとか、いろいろな問題をやりたいとか、できない子にとっては、本当に最初からわからないので、もっとゆっくりやってほしいとか、基礎をきちんとやりたいとか、そういう子たちが一緒に授業をするよりは、自分たちで希望をとって分かれてやったほうが学力向上になるのではないかと思いました。

○平井委員 自分たちが毎日学んでいく中で、そういうふうな現実の中で学習の状況を把握していただけるというのはありがたいなと思います。1年生では2人体制コースでとって指導できているということなのですからけれども、学びの差というのは個々によってあるのかなと思うので、今お話を聞くと、ぜひ3年生までそういうシステムでできたらいいなと思うのですが、人的なものなので、そういう部分では人をつけなければいけない。そこには予算がかかってきます。ということで、市長、そういうふうなところで。

○伊藤教育長 少人数指導というので中学校は大体の枠は2人の先生がついています。それは例えば数学だったり英語だったりするので、その活用をさきほどの提言のように1年生のときだけではなくて2年生も3年生もというと、少し人数が足りないので、それについては聞いてみて、実際子どもからこんな話を聞くのは私は初めてなので、こっちはそのほうが学力が上がって子どもが助かるのだからというので配置しているのですけれども、そういう意見があるというならば、中学校のほうで数学は2年生でも少人数でやろう。要するに分かれたほうがよいというのなら、それはそれで私どもは意見をまとめて市長さんのほうに、このような形で提案したいということ話し、それでまた判断いただくということになります。

○内野市長 だけど、今言った提案というのは、1つ大きな学校としてやっていることの、現実にはわからないんだけど、TTの関係だと思うのですが、少人数学級でずっと成績がいい人のグループ、じっくりやりたいんだというグループに分けるという話でしょう。そういうのはできるの？

○伊藤教育長 現実に行っているんです。

○内野市長 今それをやっているの？

○伊藤教育長 はい。習熟度別のグループなのですからけれども、だからそういう習熟度が高いグループと、もっとじっくり丁寧に基礎的なことをやりたいグループに分かれて中学校では少人数学級を行っている。

○内野市長 予算的には問題は基本的にはないと思うのですよね。学力向上が学校の使命感であるし、生活習慣を身につけることもそうだし、それぞれ個性を生かすというのがありますけれども、最低限度、学力を身につけるということが学校の使命感だから、そういう部分では予算上の問題というのは相当うちもつけてきたのですけれども、中学校は6校ありますから、それぞれの特徴的なことがあっていいと思うのですよね。だから有馬中学校はこう、海西中学校はこうと。全部を金太郎あめのように6校でやるからおかしくなる

ので、特徴的なことを教育委員会で議論してもらって、ここが弱いからこういう部分をやりたいという提案を今後すべきだと私は思うのです。これはみんな金太郎あめになってしまうのですよ。

学力テストをやっている1つの大きな要因は、何が弱いのかという問題が1つあるわけ。その分析をしてどういう形で持っていくかという問題があると思いますよね。国語が悪ければ国語を中心にやる、数学が悪ければ数学をある程度底上げする、そういった特色をこれから持っていかないと底上げできないのではないかと。みんな金太郎あめではおかしいのではないかと思いますので。

○松樹委員 先ほど他校と交流してみたいということで、ほかの中学校にも生徒会があるので、海老名の中学校の生徒会サミットを開きたいとか、一堂に会していろいろな意見を交わしてみたいとか、それは普通に校長先生にお願いをして可能な話ではないか、前向きに捉えていただければと思います。

それと濡れたかっぱというのは、皆さん、6人とも自転車通学ですか。濡れたかっぱは乾かしたいという切実な思いがあると。私は今泉中出身なので自転車通学などはしたことがないので全くわからなかったのだけれども、私の勝手な意見ですが、例えば今、自転車を校庭に置いていると思うのです。すぐ帰りやすいというのはあるのかもしれないけれども、部活動のときだとか邪魔になると言ったら変だけれども、有馬小学校の校長先生もいらっしゃいますが、有馬小学校と隣同士であれば、今のプール跡地に400台入るかどうか、私も計算したことはないですが、あそこに屋根付きの自転車置き場をつくって、そこにかっぱを干せるような機能というか、どういうのがあるのかわからないのですが、そうすると、あそこから傘を差して中学校まですぐ隣同士なので、そういうこともできるのではないかと思います。勝手な私の意見なので、それができるのかできないのかということもあると思うので、いろいろなアイデアをぶつけていただきたいと思います。

1点聞きたいのは、エレベーターを設置してほしいという提案です。現実的には急にエレベーターをぼんというのは思っているとおりだと思っただけけれども、何でエレベーターを設置してほしいのかお聞きしたいのですが、お願いします。

○有馬中学校生徒 この意見を出したのは、私が楽をしたいとかそういう意味ではなくて、今、1年生に車椅子の子がいて、いつも階段を大きな機械を使って上り降りしているのですけれども、それがすごく大変で、少し怖いとかも前に言っていたので、エレベーターをつけてあげたいなと思って、この意見を書きました。

○松樹委員 なかなかエレベーターはぱっと設置は少し難しいかなと思うのですが、例えば——わからないですが、校長先生もいらっしゃる中で勝手な物言いなのかもしれないのですが、教室のやりくりでなるべく移動が少ないようなことができるとか、少しシミュレーションをしてみるというのも手なのかなという気がしております。ありがとうございます。優しい意見で大変ほっとしました。

○内野市長 ほかに。

○伊藤教育長 さきほど話が出た、校舎を新しくしたいの？

○有馬中学校生徒 自分は理由を考えてきたのですけれども、校舎が長年使っていて老朽化してきて雨漏りが結構起きることがあって、例えば体育館も再建設したいと思っているのですけれども、10カ所以上雨漏りがあって、体育の時間とかに油断したら、そこでつるんと滑って転んで頭を打ったら、すごく大きなけがになることもないことはないので再築してほしいです。体育館も結構使うと思うのですけれども、それがふだんあまり使わない特別教室ならまだいいのですが、僕が知っている限りでは生徒が生活するふだんの教室でも雨漏りが起こっていて、それが学習に影響が出てしまうのではないかと思っているので、再建築してほしい。

○伊藤教育長 わかった。でも、雨漏りは防げるから雨漏りでは新しい校舎はつくらないと思うのだけれども、ただ、みんなに聞きたいのだけれども、新しい校舎だったらどんな校舎にしたいのか。新しい校舎にするのだったらこれがあるといいとか何かあったら、それだけ聞きたい。新しい校舎に何が欲しいか。

○有馬中学校生徒 さきほど市長もおっしゃっていたのですが、食堂がつくれればいいのですけれども、もちろん今、A、B棟とC棟にはそんなスペースがないので、D棟には食堂があって、その近くに体育館がもう1つあれば、部活で体育館を使うところが結構多くあるのですけれども、それでうまく割り振りもできるし、さっき少人数教室と言っていたのですけれども、少人数教室もD棟の中になれば、クラスが足りないということも理由の1つにはなっていると思うのですが、それがうまく回ると思うので、体育館とか普通の教室とか食堂とかが入っているようなD棟がいいと思います。

○有馬中学校生徒 ほとんど同じような意見になってしまうのですが、生徒が自由に使えるスペースを確保したほうが、ほかの学年とも交流がふえると思うし、学力ももっと上がるかなと思うのでD棟をつくってほしいです。

○伊藤教育長 今の校舎はいいの？

○有馬中学校生徒 D棟をつくるとなると、今ある有馬中学校が壊されてしまうということですか？ 自分の友達とかの親の世代とかでも有馬中学校出身の方がたくさんいて、その人たちは体育祭とかを見に来ると、やっぱり懐かしいなとかなっていたりするので、自分たちが大人になったときとかにも、また有馬中学校の名残みたいのがあって欲しいので、D棟とかは欲しいけれども有馬中学校をなくさないでほしい。

○伊藤教育長 1つだけだから有馬中学校はなくなる。

○有馬中学校生徒 校舎をがらっとは変えないでほしい。

○有馬中学校生徒 D棟があったら、会議室とか会議に使える教室とか、あと自習室が欲しいなと思います。

○有馬中学校生徒 私は吹奏楽部に所属しているのですけれども、学校で教育相談とかがあるときには、吹奏楽部だけかもしれないのですけれども使える教室が結構限られてしまって、練習の幅も狭くなってしまうので、そういうときに練習に使えるように、4人が言ってくれたみたいにD棟があればいいと思うし、D棟がもし無理なら、もう少し使える教室をふやしてほしいなと思います。

○有馬中学校生徒 自分も、今ある校舎を壊すというより、めっちゃ新しくしてすごくきれいな校舎にしてしまうと、中学校のころからすごいぜいたくをしてしまう感じで、将来、だめな大人になりそうなので、歴史ある感じでも全然いいのですけれども、自分は男子バレーボール部に所属していて、有馬中学校の体育館がほかの中学校の体育館に比べるととても小さいので、体育館は大きくしてほしいなと思います。

○伊藤教育長 ありがとうございます。いろいろな考え方を知りました。

○内野市長 いろいろな考え方があるのですけれども、一時、皆さんの有馬中学校と有馬小学校が2つありますよね、その裏側の横須賀水道の土地を確保して、あそこに新棟を建てる予定だったのですよ。あそこの敷地面積で建てられる高層の校舎を建てていく。その部分で再配置をやっていこう。有馬中学校と有馬小学校は歴史があるので、教育委員会も温存したいわけですね。教育長もそう言っています。そうすることによって、今の建物を高くして横須賀水道のほうに持っていけば、こっちが広がる、そういう構想で進んだのだけれども、横須賀水道が歴史ある貯水槽があるので、土地をうちのほうに売ってくれないのですよ。そういった計画もありました。

だから、海老名市としての考え方は、今、学校の再配置計画をいろいろやっていますけれども、有馬中学校、有馬小学校をなくすことはあり得ません。だけど、今一緒になって

いますから、どこにつくるかという問題があります。その部分をどこに適正配置をするかというのは大きな課題です。歴史が一番あるからどうかと、門沢橋小学校でも社家小学校でもどこでもそうなのですよ。社家小学校、門沢橋小学校、有馬小学校、杉久保小学校、4つありますけれども、将来は2校ぐらいでいいのではないかと言うと、自分がかかわったところは残したいとなってしまうわけ。歴史があるのは有馬中と有馬小で、その部分をどうやって再配置をやっていくかというのは将来の問題です。それを延命していくと、校舎も体育館も絶対新しくなりません。なぜかというとお金がないのです。海老名市が今、発展的に動いているときに計画をしっかりとつくって先取りをしたことをやらないと、20年後、このまま放置すると、いわゆる県立高校になってしまいます。今、県立高校がみんなどこでも古くなっています。そういった状況で、教育の施設を新しくしようなどというのはどこにも出てこない。

ここで一生懸命、再配置計画で提案をしているのですけれども、そういった部分では、今言われた雨漏りするとかいろいろの関係でいけば、全部そこにおさめたいとなる。そのときに食堂をつくれればよいではないとか、あるいはブラスバンド部が音楽とかそういうのは防音設備をしっかりとやればいいじゃないとか、そういう問題は出てきます。だけど、海老名は小学校は13校、中学校は6校ある。人口は減少するからそのまま全部残すわけにいかないのです。どこを廃止して、どこに学校をつくり直すかといういろいろ議論があります。

もっと古い海老名小学校と海老名中学校がありますけれども、どちらかといえば、うちは海老名中学校を市役所の横に持てきたいのです。市役所の横に持ってきて、海西中学校と海老名中学校が一緒になっていけばよいのではないかと。そうすると、海西中学校は残したいという人がいると、そこで詰まってしまう。海老名中学校はあそこにあつたのじゃないかと言われても、あそこは借地があるので下におろしたほうがいいのではないかと。小学校をそのまま改築したほうがいいのではないかと。ここ数年間でそういったことを考えていかなければいけない。そこで今、意外と雨漏りとかそういうのを大々的に直していませんよね。どうしようかと、そういう問題があることだけは、教育長とかは学校施設については考えていますから。その部分でどうするかということが大きな問題です。

一回は動いたのですよね。水道局のほうにビルを建てて、こっちをグラウンドにしてといういろいろ考えたのですけれども、水道局がだめなので、そういう問題があります。だから、皆さんは卒業してしまうかもしれませんが、方向性はよくなるほうに向かっています。

す。先ほど言ったトイレの関係からいろいろな関係があるのですけれども、高校へ行くとわかりますが、冷暖房は入っていませんから。入っていないところはたくさんありますから、そういった部分ではうちなどは先行的に入れましたから、その部分でお金を使ったところがあって、今後どういうことをやっていくかというのは予算が必要なので教育委員会でも議論してもらって、だけどもあと10年しか海老名市の財政力は保てない。それはなぜかという、10年たつと人口は減少していきますから、そのときに大胆なことはできなくなってくる。そこが大きな課題であるということだけは認識を教育委員さんもしていただきたい。

子どもたちが言っていることを私は見ている、やはりよいなと思いますよ。電子ピアノも各クラスに置いてほしい。今、電子ピアノって何台あるのですか。学年に1台とか2台？

○有馬中学校生徒 各クラスには電子ピアノは、ある教室もあるにはあるのですけれども全クラスにはなくて、音楽室とか体育館に1台とか、そういう特別教室に1台ずつという状況です。

○内野市長 考えてもらうか。予算とかなんかがありますから。

締めてしまってもいいのかな。もう少し言いたいことは。

私は同感しているのだけれども、なかなか教育委員会ほうんと言わないから。いいなと思うのだけれども。グラウンドに芝生を植え、グラウンドにある外トイレをきれいにしてほしい。芝生を植えようと思ったら、管理が難しくなってしまったのですよ。

○伊藤教育長 芝生を植えたかったら種と苗はあげますよ。

○内野市長 学校芝生化というのはやったのですけれども、なかなか育たないし、有馬小学校、有馬中学校のグラウンドの下がよくないのですね。かたいのですって。30センチくらい掘って全部やり返さないとだめなのですって。一回掘ってやったのだけれども、どんどん落ちてしまう。その問題はあるので、校舎とともにやるしかないなとつくづく感じています。

だから今、D棟で新しい校舎をつくるということが言われていますけれども、やるなら全部作り返してしまったほうが早いです。それは小中隣同士になっていますから、どうつくるか。これは教育委員会でも議論してほしい。そのときに有馬小学校、有馬中学校だけの問題ではなくて、南部地域の小学校をどうするかということも考えていただきたい。全部維持するのは難しいので、統廃合を図っていくとか、そういった議論が必要だな

と思いますね。

ほかにいいですか。何か不十分な点。市長さんは、これはよいなと納得するものがたくさんあるんですよ。

○有馬中学校生徒 修学旅行は京都の民泊だったのですけれども、でも、各家庭によって差がすごく、すごくよいところは焼き肉とかに連れていってもらっているのですけれども、私のところは海苔巻きオンリーだったのです。その海苔巻きの中身も、そこら辺に生えている三つ葉とかかまぼことか質素な感じで、差がすごく激しい。いいところはいいけれども、悪いところは悪いみたいなのがあったので、民泊はやめてほしいなと思います。

○内野市長 はっきり申し上げて、私は、民泊反対派です。教育委員会に言っているのですけれども、教育委員会の考え方、校長先生もいらっしゃるから。私たちはちょうど万博があったときに3年のときに万博も行きましたし、子どもたちが今の交通機関の中で行けるところはいっぱいあるではないですか。昔は、小学校は日光へ行くのが大変だったけれども、さがみ縦貫道で圏央道で行ってしまえば二、三時間で行ってしまう。もっと仙台まで延ばしたら、あるいは平泉の中尊寺まで行ってしまったらと言っている。そうすると、そこまではと始まってしまうわけ。

そういった部分では、同じお金を使っても遠くに行けるようになっていよという話が、それが先生方のこれからの問題だと私は思います。民泊がよいというのは、過疎地が多くなったから民泊だと。私の孫もこの間、青森に行きました。何をやってきたのと言ったら、ニンニク取りを手伝ったと。ずっと民泊なのだよ。では十和田湖は行ったの？ 行っていない。あそこは行ったの？ 行っていない。何の意味で行ったのか。農家だったら近所にいっぱい農家があるから手伝えればよいではないかという話になるわけですよ。農業の体験をやるのであれば、海老名市は農業の世帯が多くあるから、そこら辺の問題というのは海老名で農業の体験をできるので、どうしても青森へ行って、東北へ行って農業を体験しないといけないか、そこが私もわからないのです。わからないでしょう。それはありますよね、松樹委員とね。

○松樹委員 いや、私はあれですけど。

○伊藤教育長 あなたたちはどう思うの？ 例えば修学旅行で行くのはそういう家庭ではなくて、みんなでホテルかなんかに泊まっていろいろ行きたいと思う人、手を挙げてごらん。そうだと思う人。みんなそうなんだ。

でも、今までの体験型のやつは意義があったと思うのですよ。でも、これから小学生の

子どもたちにもどこに行きたいと聞いたら、京都とか大阪に行きたいと言ったではないですか。これって総合的な学習の時間とか、それを絡めるのはよくないのですけれども、子どもたちが中学生ぐらいになったら意見を聞いてもよいのかなと。先生たちは本当に子どもたちのことを思って決めるのだけれども、でも、そのことが本当に子どもに通じているかなといったら、通じていなかったりするから、自分たちでつくるとかそういうふうな変換はしていくべきだなと私自身も思っています。

そういう意味で、行き先も含めて、小学校の修学旅行でも、日光は伝統的におじいちゃんもおばあちゃんも行ったところだから話が合うとか、いろいろあるのだろうけれども、そういうのはこれから考えるべきと思っています。そういうのを子どもたちが本当に正直にやると、みんな手を挙げてしまうわけじゃないですか。その辺、自分がやっていることとか自分たちがやっていることが、差が出てきているなど。本当に子どもたちの思いがちやんとすくえているかなと思ったら、そういうのは考えたほうがいい。それはよく考えます。

○内野市長 1つだけ、教育委員さんがここにいますけれども、私は民泊は否定していないのですよ。いい面はある。1つだけ問題は、危機管理の問題はすごくある。例えば地震があったときに、生徒が分散しているからどうやって安全管理をできるか、これは十分、中学校の先生方に考えてほしい。分散してしまっているから、それも過疎地に行っているから、崖崩れとか、そういったことがあっても海老名の消防も助けられないわけですよ。富士ふれあいの森をやめたのは、河口湖のまちに行ったときに、地震があったときにうちの生徒を助けていただけませんかと言ったら、それはそちらの消防が来るべきだと言われちゃったのですよ。だから私ども子どもたちがどこか遠くに行くときに、その安全管理を考えたときに、まとまっていればいいけれども、分散していて地震があったときにはどうにもできなくなってしまいます。これは地元をお願いするしかない。だけど、地元がそれだけの消防力とか安全管理を持っていていいけれども、人口が減っているところというのは全部が減っていますから、その安全管理はすごく難しいのではないかということで、学校の先生は十分安全管理を、いざ何かあったときにどうするんだということは考えてほしいと思いますね。まとまっていたほうが安全管理はやりやすいという形になります。

ほかに何かありますか。私は、中学校ぐらいになったらもっと遠くへ行ったらと。沖縄でもいいじゃないか、北海道でもいいじゃないかと言って。

○伊藤教育長 どこか行きたいところを聞いてみたら。修学旅行で行きたいところ。好きなように言っていいから。自分が行きたいところ。3年生のときにみんなと思い出づくりに行きたいところ。

○有馬中学校生徒 貴重な体験をしたいという面で、僕は海外に旅行に行きたいと思います。

○有馬中学校生徒 私は沖縄とか北海道とか、日本の中だけれども、遠いところとかに行きたいです。

○有馬中学校生徒 一緒なのですけれども、自分の足では行けないようなところに、自分の県からなるべく遠い場所に行きたいです。

○有馬中学校生徒 私も沖縄とか北海道とか、自分の地域とは全然違う地域の場所に行きたいです。

○有馬中学校生徒 私も同じで、北海道とか沖縄とかにも行きたいのですけれども、今年の修学旅行も史跡めぐりとかをして結構いい体験になったので、修学旅行はいい経験になればどこでもいいと私は思います。

○有馬中学校生徒 自分は正直に言うと、大阪のUSJに行きたいなと思います。でも、1泊2日とかで最初の日にはUSJに行ったら、次の日は京都とかで歴史あるお寺とか観光すれば一石二鳥になるのではないかと思います。

○内野市長 ありがとうございます。ちなみに白石市の修学旅行は、中学生が来ると横浜で1泊して、2泊目は帰りがけにディズニーランドに行って帰りますよ。それが1つのステータス。そういった部分はありますね。そこをどう学校の先生方が考えるか。市教も今の時代の中で考えるべきだと思います。私はきょう言ったように修学旅行とかはそのような思い入れがありますから、そういった面でもよろしくお願ひしたい。子どもたちにいい思い出をつくっていただきたいと思っています。

本当にありがとうございます。本日はいい参考になりました。これからも子どもたちのために皆さんで話し合っていきたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

(拍手)

○内野市長 それでは、(4)保護者負担経費についてです。私のほうから、30年度に予算計上を予定しておりました生徒の学校管理物品について保護者負担軽減を図りたいということで、今後こういった形で今進もうとしています。まず、柔道着は今後、教育委員会が

購入して、それをクリーニングは学校で総括的にやっていくという形になります。よって、来年度の新入学生については柔道着を買う必要はありません。今後それを繰り返していくことによって、卒業した人は要らないということで置いていきますから、それは学校管理になります。それを学年ごとにやりながら、それぞれが着たら、終わった段階では、次の人に行くときにはクリーニングをして行うという形になります。そういった部分がまず1点あります。

調べますと、各学校ではレンタルもありますし、購入しているところもありますし、学校備品にしているところもあります。学校備品にしても家庭で洗濯をしているという状況がありますから、これは今後、すべて一切、学校で管理をします。学校では終わった段階でしまうところがないということがありますから、この部分については十分検討していきたいと考えております。これについてはすべて予算上、海老名市の教育予算で対応していくという形になります。

もう1つ、保護者軽減で小学校4年のときに彫刻刀を買うと思いますがけれども、彫刻刀も今後、新年度の生徒から教育委員会で購入して、学校で管理をします。必要な彫刻刀の数をそろえて、各学年で使う場合はそこで調整をしていきたいという考え方を持っています。よって、今後、保護者が購入することはないという形で考えております。

私どもがもう1つ考えたのは、小学生が給食で白衣を着ますけれども、これについても海老名市教育委員会で全部、管理運営、洗濯をしたらどうかといったら、もうそれぞれ相当整っているという形になっておりますので、共用白衣についてはいろいろな方法で対応していきたいという議論をこれからお願いしたいと思っています。保護者負担を軽減していくということが目的でありますから、今、教材費の問題とかいろいろ整理していますけれども、義務教育の中に入ったときに、学校の学年ごとにかかっているものについて、学校もこういった部分は残るものだけということになれば、基本的に予算を使ってそのまま学校に残していくという形にしたいと思っていますので、よろしくお願いしたいと思えます。

教育委員の皆さんは、先ほどの修学旅行の関係ですけれども、一度教育委員会でもっと議論していただきたいと思っています。安全管理の問題とかさまざまな点がありますので、分散型でやるのがよいのか悪いのか、あるいはこれだけ交通網が発達していますから、どこまでがいいのか悪いのか、その範囲内で調べてみると、学校で集める額に相当差がありますから、ある程度行き先を決めるということと、額、修学旅行費についても、ど

ここまでいいのかということも議論していただきたいと思っています。よろしいでしょうか。

以上、傍聴の方は何かありますか。よろしいですか。

では、ここで締めていきたいと思えます。生徒の皆さん、どうもありがとうございました。皆さんが卒業してから変わってしまいますけれども、後輩がよくなるのでよろしくお願ひしたいと思えます。

それでは、生徒の皆さんに拍手を送りたいと思えます。ありがとうございました。（拍手）勉強も頑張ってくださいね。

以上で、本日の日程は、すべて終了いたしましたので、司会を教育部次長に戻します。

○教育部次長 どうもありがとうございました。

ここで1点、事務連絡をさせていただきたいと思えます。次回の総合教育会議につきましては、来年2月3日土曜日の10時半から、市役所の401会議室で予定をしてございます。ぜひまた皆様のご参加をお願いしたいと思えます。

それでは、以上をもちまして第3回海老名市総合教育会議を閉会とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。